高知市(四国ブロック)

【計画期間 24年11月~30年3月】

礎を築く。

・中世~幕末:山内一豊が大高坂山に城を築き、その後、高知城を中心に土佐の政治、経済。 文化の中心地として発展していく。幕末には坂本龍馬など勤皇の志士を排出して明治維新の

目標

新しい街なかの暮らし方を

実感できる基盤を充実させる

街なかの回遊性を向上させる

H19 H20

明治~昭和:明治22年市政の施行から、幾度かの合併を経ながら県都として発展していく。

指標

基準値

(H23)(H30)

目標値

5.017人 5.145人 103.249人 105.916人

【中心市街地の歩行者通行量の推移と数値目標】

居住人口

歩行者通行量

(平日・休日合計)

140000 目標値 105,916 2,667人增 120000 97746 100000 80000 60000 40000 20000

【中心市街地を巡る状況】

○ 高度成長期やバブル期における住宅圏の拡大、 生活を支える店舗やサービス施設の郊外立地 により、中心市街地の人口が郊外に流出。

○ 郊外への大規模小売店舗の進出や、中心市街 地の大規模小売店舗の相次ぐ撤退などの影響 を受け、中心市街地の魅力が失われ、回遊性が 低下し、歩行者通行量が減少。

【中心市街地に関する指標の推移】

H14:6,044人 \rightarrow H23:5,017人(▲17.0%)

〇中心市街地の居住人口

〇歩行者通行量(平日・休日合計) H17:115,988人 \rightarrow H23:103,249人($\blacktriangle11.0%$)

【目指す中心市街地像】 ○土佐の歴史を感じる魅力あふれる街を形成し、

高知市から高知県全域の賑わいを創出する。

■新しい街なかの暮らし方を実感できる基盤を充実させる ⇒主要事業:①(仮称)帯屋町二丁目複合施設整備事業、②「セントラルレジデンス高知中央公園」整備事業、

③新庁舎建設事業 など

■街なかの回遊性を向上させる

⇒主要事業:④新資料館整備事業、⑤おもてなし拠点の魅力向上事業、⑥旧少年補導センター跡地活用事業、

⑦新図書館等複合施設の整備、⑧よさこい情報発信機能強化事業 など

高知市中心市街地活性化基本計画の事業概要

新しい街なかの暮らし方を 実感できる基盤を充実させる

①(仮称)帯屋町二丁目複合施設 整備事業

多様化する現代のライフスタイ ルに対応するとともに、新たな街 なか暮らしを支える店舗や中心市 街地への来街者を創出し、昼間を 中心とした街の賑わいにも寄与す るオフィス等多機能を備える住宅 を整備する。

②「セントラルレジデンス高知中央 公園 | 整備事業

中心市街地において新しい街な かの暮らしを支える、民間分譲マ ンションを建設する。



③新庁舎建設事業

老朽化した庁舎の建て替えに あわせて、災害時の災害対応拠 点・避難施設の機能や市民が気 軽に利用できるスペースを整備 することで、街なかの安心を支え る。



山内家資料を中心として高知の歴史 を全国に発信する新たな歴史系資料 館の建設を行い、高知城下まちあるき ガイド向けの講座の開催等を行い、街 なかに点在している魅力の掘り起こし を行う。



観光周遊バス事業運行事業

玄関口である高知駅周辺におい て、来街者のおもてなし空間として の魅力向上を図り、主な観光地を 周遊するバスを運行する。

⑥旧少年補導センター跡地活用 事業

中心市街地の市有地を活用し、 新たな商業・サービス・文化等の拠 点施設を整備することにより、新た な中心市街地の魅力、滞留拠点な どを創出し、来街者の増加、回遊 性の向上を促進する。

街なかの回遊性を向上させる

⑦新図書館等複合施設の整備 〇新図書館の整備

狭隘化や老朽化等が進んでい る県立図書館と市民図書館に、 「巨大書庫」、「広大な開架閲覧 室」、「課題解決支援サービスの 展開」等を導入し、県市合築の 図書館を整備する。

〇(仮称)こども科学館の整備

次代を担う創造性豊かな人材 を育成し、科学的な見方や考え 方を養い、知的創造活動の場を 提供するため、「新タイプのプラ ネタリウムの設置」等の提供を 図る(仮称)こども科学館を整備 する。

⑧よさこい情報発信機能強化 事業

はりまや橋周辺を拠点として、 よさこいをテーマとした展示、J R四国高知駅周辺でのおもて なしイベントとも連携したイベ ントの開催を行うなど、高知の 生活文化を広く内外へ発信す る機能を強化する。

